



三鷹市

三鷹市は、都立井の頭恩賜公園や国分寺崖線等のまとまった緑が残る住宅都市です。市内には、今でも屋敷林や生産緑地など「武蔵野の原風景」が数多く残っています。三鷹市では、4箇所の「ふれあいの里」を緑と水の拠点として位置づけました。取組みとして、市民団体による農業体験など様々な活動が行われています。

大沢の里

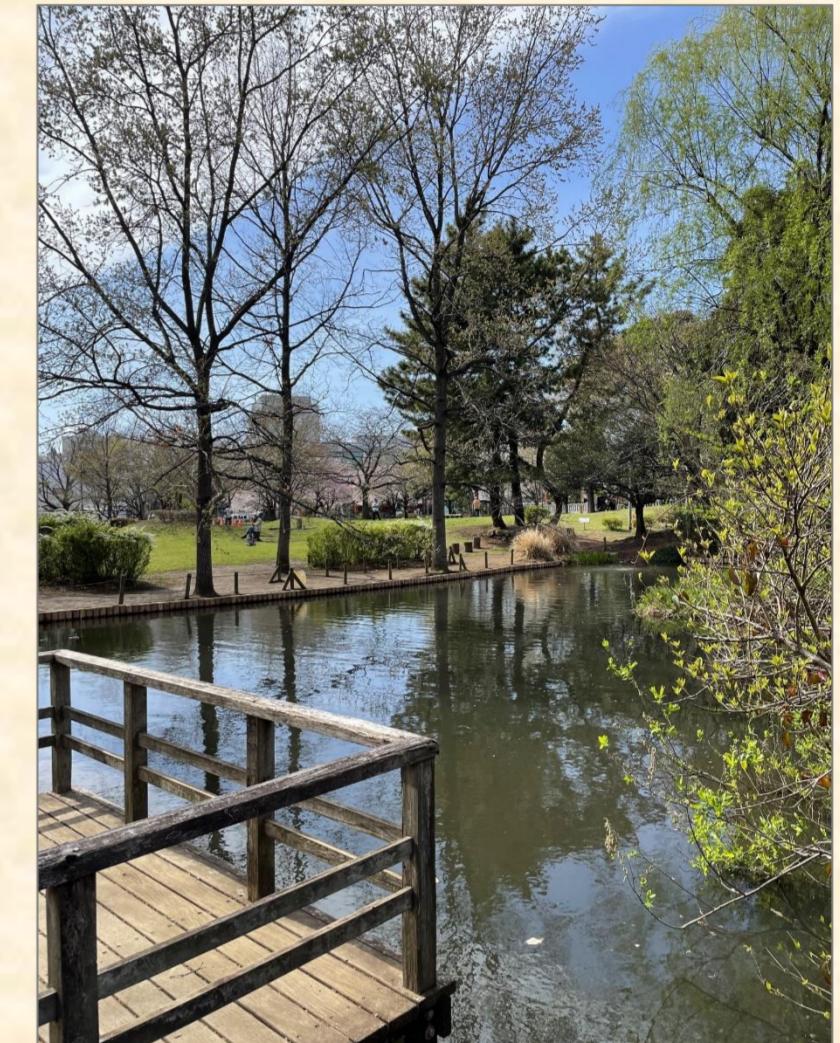
大沢の里は、野川と国分寺崖線の緑を軸線に、水田や畠が拡がるまとまった農空間に特色があります。また地区内には数多くの歴史的資源が存在しています。さらに湧水の存在が、わさび田やホタルの生育を可能とさせ、里の大きな特徴となっています。大沢の里は、まさに三鷹市における農風景の源であり、里は四季の魅力にあふれています。水田の管理やホタル生育のための環境整備は地元のボランティア団体「ほたるの里・三鷹村」が行っています。また、崖線の上部には親子体験農園や市民農園、また拠点施設となる大沢ふるさとセンターがあります。



市民による団体「ほたるの里・三鷹村」を中心に、水田の管理やホタル育成のための環境整備だけでなく、地域の小学校(5年生)の稻づくり体験学習などの活動を行っています。

丸池の里

丸池の里は、復活した丸池と武蔵野の雑木林とが一体となった公園です。この公園にある「丸池」は仙川流域の宅地化で埋め立てられた池を市民と協働で作成したプランをもとに復活させたものです。公園内の水田での米作りには、小学5年生が授業として参加して、代掻き、田植え、稻刈りを体験しています。



丸池公園での市民活動の中心となっている団体が「丸池の里わくわく村」です。「丸池わくわくまつり」や自然観察オリエンテーションの「丸池ツアー」といった事業や丸池を題材とした地域の小学校の授業との連携など地域の子ども達へ丸池の自然を大切にする活動を広げています。

牟礼の里

牟礼の里は、玉川上水の奥にひろがる高台にあり、まとまりある一団の農業空間から構成されています。この空間内に身を置くと都会の雑踏から切り離され人里の裏山にたたずむような静寂を感じることができます。核となる「牟礼の里公園」は、市内の公園の中で一番標高が高く、南西向きの斜面地の芝生広場からは富士山を臨むことができると共に、昔ながらのふるさとの農風景を保全した公園です。庭木戸で囲まれた和的な空間は、周辺の良好な環境を活かし、五感で体感することを大切に考えて作られています。牟礼の里は、時代の移り変わりとは無関係に存在し続けた昔ながらの「三鷹のふるさと」の魅力にあふれています。



牟礼の里公園で、毎年10月に開催される秋まつりです。町会自治会や公園管理のボランティア団体である「牟礼栗の木会」などで実行委員会を組織し、おまつりの企画・運営を行っています。

北野の里(仮称)

三鷹市では、東京外かく環状道路(関越~東名)の整備を契機に、国・東京都が示した「対応の方針」に基づき、市、国及び東京都との協働で市民参加によるワークショップを開催するなど、地域の意見を聴きながら、外環中央ジャンクション(仮称)の蓋かけ上部空間等の利用や、ジャンクション周辺のまちづくりを検討してきました。「第5次三鷹市基本計画」「三鷹市土地利用総合計画2027」などの中で、蓋かけ上部に新たに創出される空間を含む周辺一帯を北野の里(仮称)と位置付け、「緑と水の公園都市」を象徴する空間として、新たなふれあいの里を創出します。



北野情報コーナーは、北野の里(仮称)の実現に向け、地域の皆様のより近いところでご意見等を聴きながら、まちづくりや外環事業に係る情報提供・情報発信をおこなう拠点となっています。コミュニティ農園と広場が併設されています。

問合せ先: 三鷹市緑と公園課

☎ 0422-29-9789